

「会員短信 26」

「俳句は心の日記帳」 上山美穂

滑稽俳句協会に入会して、私は自分の日常や好きなものに対する想いを俳句に綴るようになった。

心地よく間違ふ春の発表会

好きだったピアノを再び習い始めて最初の発表会の時、ショパンの「雨だれ」でつまずいた。その後、リベンジとしてベートーベンの「月光」に挑戦し、今はドビュッシーの「雪が踊っている」を練習中。粉雪の舞う様な小さな小さな音から始まる。

細指のピアニシモから春立ちぬ

私は甘いものやカフェも好き。

春を待つホットケーキを待つやうに

ストローをスルスルのぼりアイスティー

すると体重計が気になるようになった。

七夕近づき織姫ダイエット

また、腰や肩が弱い。

ぎっくり腰なぜか勤労感謝の日

肩凝らす巢燕に目を凝らしては

そこで健康とダイエットを兼ねて水泳を始めた。

ラメ入りの水着で潜る天の川

今は世界が悩んでいる。

花びらの自在コロナ菌舞へど

人間は、花びらのように自在にはならないので、水泳はお休みして、ピアノはオンラインレッスン。

唇にシャネルのルージュ紅椿

以前、こんな句を詠んだが、口紅もマスクの下でなりを潜めている。